京博連 だより
Vol.47
2010.9

京の博物館

目次

巻頭言…… 1
おこしやす
・駒井家住宅（駒井卓・静江記念館）… 2
・宮井ふろしき・袱紗ギャラリー… 4
トピックス…… 6
京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」… 8
・頼山陽書斎山紫水明處　・京都市文化財建造物保存技術研修センター
・水野克比古フォトギャラリー 町家写真館
美術館・博物館と私…… 11
ティータイム…… 12

関西から文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言

フィリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ
（在京都フランス総領事）

様々な国々における長期滞在期間中，私は外交官としての任務，そしてプライベートの旅行で地球上のあらゆる土地を訪れ，有名無名，新旧にかかわらず，埃にまみれた，あるいは最新技術といったあらゆる種類のミュージアムを訪れました。その場所がどこであろうと，そこで私はいつも発見と知ることの喜びを覚えました。

ミュージアムに足を踏み込む，それはすなわち日常を離れ，もう一つの別世界へ入り込むことであり，ほかの次元に身を託し，思いがけないものに触れ，驚きを楽しむことであります。そして，知識を豊かにし，教養を高め，人類の才能の表現の多種多様性を発見し，人々が置かれた環境に適応し，変化させ，描写，あるいは超越するために立ち向かっていった様に驚嘆させられます。

加えてミュージアムは収蔵品の保存という伝統的な役割を担っており，収蔵品を見る，そして理解することを我々に提供してくれます。それは高尚な文化であれ，庶民的な文化であれ，より多くの人々に普及させる必要不可欠な手段であります。直接作品に触れるということは全く持って特別な，欠くことのできないものであり，そして，最も進化したいかなるテクノロジーでも，絵画，彫刻，または我々を凝視させるすべての作品の前で我々が覚えるこの気持ちの高ぶりは得ることができません。それぞれの作品が我々に話しかけ，歴史，歩みを物語ってくれます。たとえ来館者の人ごみにまぎれこんでいても，作品を見るものだけに差し向けられたこの特別な感情を我々は得ることができます。なぜなら芸術のすべての可能性が湧き出るこの源を各自がそれぞれの方法で汲み上げているからです。しかし，そのためには開かれたエスプリで，耳を傾け，変幻自在のイマジネーションで見識の広さを発揮しなくてはいけません。それは作品だけでは作品として存在することができないからです。つまり作品というものは唯一我々の視線を通してこそ存在するものなのです。我々が作品に生命を与えるのですが，そのために我々は作品が発する言葉を理解しなくてはいけないのです。

おそらく京都はこのようなことがすべて可能な都市でしょう。模範的な都市である京都はたくさんのミュージアムを擁し，来館者に信じられないほど豊富なテーマを提供しています。たとえば，芸術は勿論のこと，あらゆるすべての芸術表現に関するもの，最もポピュラーなものから最もクラシックなものまで，すべての時代の芸術，古代からアバンギャルド，また竹の博物館，服飾，有りとあらゆる宴会を展示したもの，甲冑，釜，お菓子，生け花，あるいは漫画などとまだまだ多くの様々なミュージアムが京都には存在し，訪れる人々に尽きることのない楽しみを与えています。なぜならば，都市の遺産を非常に慎重に保存している京都では，過去を理解することなしに未来を構築することはできないこと，そして人々は米を食するだけではなく文化をも咀嚼（そしゃく）するということを，ずっと以前より理解していたからです。

おこしやす

駒井家住宅（駒井卓・静江記念館）

財団法人日本ナショナルトラスト　主任研究員　土井　祥子

駒井家住宅の概要と施主・駒井卓

左京区北白川，白川疎水のせせらぎが心地よい桜並木の散策道沿いの一角に，駒井家住宅はあります。大正末から昭和初期に形成され，「学者村」といわれた北白川の閑静な住宅地にあって，比叡山が一望される東に庭を広く設けた洋館建築です。昭和天皇に生物学を教授されるなど，わが国の動物遺伝学，動物分類学に大きな功績を残した，京都大学名誉教授・駒井卓博士（1886～1972）の私邸として，昭和２年，ヴォーリズ建築事務所の設計により建てられました。約30m四方の敷地には，約30坪の主屋のほか，洗濯場として使われた付属屋，温室，書生用の離れ屋などがあります。

駒井卓は，大正６(1917)年，東京帝国大学理学部動物学選科を修了，同10年には京都帝国大学理学部助教授に着任し，12～14年欧米に留学します。留学中は，主に米国コロンビア大学で，のちにノーベル生理学・医学賞を受賞したT.H.モーガンの下でショウジョウバエの研究に従事しました。大正14年には，「進化論」で知られるチャールズ・ダーウィンが『種の起源』を執筆した，英国ダウン村の家を訪れています。駒井家住宅の温室は，駒井卓が敬愛するダーウィン邸の庭の一角に温室があるのに触発されたことによると考えられています。

帰国後，駒井がヴォーリズに自邸の設計を依頼したのは，夫人静江（1890～1973）の関係によるといわれています。神戸女学院英語科を卒業し熱心なクリスチャン活動を行った静江は，やはり女学院の音楽科で学び，のちにヴォーリズと結婚することになる一柳満喜子と同窓生でした。博士の欧米留学にも同行し英語に堪能であった静江の先進的な生活観が，ヴォーリズへの働きかけと，設計へのこだわりに反映したのでしょう。

駒井家住宅　外観

温室の外観

設計者ヴォーリズと駒井家住宅

設計者であるW.M.ヴォーリズ（1880～1964）は，コロラド大学哲学科を卒業後，明治38（1905）年に来日，滋賀県立商業学校（現在の滋賀県立八幡商業高等学校）の英語科教師に着任します。２年余りの教員時代を経て，近江八幡で近江ミッション（のちの近江兄弟社）を設立，伝道と建築，メンソレータムの事業などさまざまな活動を始めました。

全国で1,000を超える建築を手がけたヴォーリズは，教会堂や，関西学院，神戸女学院などのミッションスクールなど，キリスト教関係の建築をはじめ，大丸心斎橋店や山の上ホテル（東京）などの都市建築，そして多くの洋風住宅を残しています。

京都でも大丸ヴィラ（旧下村邸）や同志社アーモスト館，東華菜館などのヴォーリズ建築が知られており，なかでも駒井家住宅は，ヴォーリズの円熟期における代表的な住宅建築として，平成10年京都市指定有形文化財に指定されました。

外観は，昭和初期にアメリカで流行していたスパニッシュ様式を基調とし，切妻赤色桟瓦葺の屋根，外壁面はモルタルのスタッコ仕上げになっています。腰掛け付きの出窓や造形的にすぐれたホールの階段，６畳和室の上げ下げ窓と障子を併用した出窓など，実用的でありながら装飾的にもすぐれたデザインが随所にみられ，開口部を多く配した明るく心地よ

い空間には，健康と環境に配慮したヴォーリズの住宅設計思想が息づいています。

６畳和室を設けたことや，屋根を設計当初に計画されていたスパニッシュ瓦ではなく桟瓦葺きに変更したり，洋室の天井高を低く抑えたりしているのも，様式的表現を貫くのではなく，周囲の景観との調和を心がけ，日本人の生活に即し快適性や機能性を重視したヴォーリズの設計理念と，駒井卓・静江夫妻の生活観の表れと言えるでしょう。

内装や展示品の見どころ

１階リビングルームには，駒井卓が結婚祝いに静江夫人に贈ったドイツ製のピアノや蓄音機があります。こうした家具や調度品も，すべて駒井家のご家族から寄贈されたものです。人数によって大きさを変えられるダイニングテーブルのセットや，回転式の書棚などは，静江が米国から入手したカタログで取り寄せたものと言われています。

屋根裏部屋への昇降式階段や，玄関脇の廊下にはめ込まれた靴磨きなどを入れる引き出し，腰掛け下の収納など，さりげないところに工夫に満ちた造作を発見するのも楽しみの一つです。

２階の寝室には，収納を活用した展示スペースを設けています。駒井博士が使っていたタイプライターや虫眼鏡，スケッチの際に用いたコンテなどの研究資料のほか，旅先から持ち帰られた陶芸品や美術品などを，当時の様子を復元して展示しています。また，疏水に面した２階の書斎には，駒井博士の研究資料が当時のままで展示されており，机に向かい研究に勤しむ博士の姿を思い描くことができます。

南向きのリビングルーム

タイプライターや研究道具が並ぶ展示室

日本ナショナルトラストによる保護活動

昭和47年に駒井卓が他界，翌年静江も後を追うように没した後，本住宅は横浜在住のご嫡男に継がれ，駒井家に関係する会社の研修所兼保養所として24年間維持管理されました。平成14年，駒井家のご家族が「この建物と景観，ならびに駒井卓・静江の実績を未来に伝え残したい」と念願され，土地および建物を財団法人日本ナショナルトラスト（JNT）に寄贈されました。

寄贈を受け，JNTでは傷んでいた屋根や床などの修理を実施，また，見学会を重ねながら邸内の整理や庭の清掃などを会員有志で行うなど公開準備をすすめ，平成16年から一般公開を開始しました。現在は，見学だけでなく，会合や展示などの会場として，また雑誌やテレビ等のロケ地としても利用されています。

ボランティアスタッフが見学者を案内

見学者の案内をはじめ，邸内や庭の手入れなどは，駒井家住宅をこよなく愛し，訪れる見学者を笑顔でお迎えしたいという思いで参加している会員のボランティア活動に支えられています。平成21年度からは，「NPO法人アメニティ2000協会」との共同運営を開始して活動のさらなる充実をはかるとともに，京阪神地域をはじめ全国に残るヴォーリズ建築とのネットワークの拠点として，ナショナル・トラスト活動の発信にも努めています。

駒井家住宅（駒井卓・静江記念館）

所 在 地　京都市左京区北白川伊織町64
TEL（075）724-3115（公開日のみ）
（03）6380-8511（日本ナショナルトラスト事務局）

交　　通　叡山電鉄鞍馬線「茶山」駅下車徒歩７分
市バス「伊織町」下車徒歩２分，「上終町京都造形芸大前」下車徒歩４分

開館時間　金曜・土曜日の10：00～16：00（入館は15時まで。ただし，７月第３金曜日～９月第１土曜日・12月第３金曜日～２月末までは休館）

料　　金　大人500円，中・高生200円（維持修復協力金として）
※日本ナショナルトラスト会員は無料

ホームページ　http://www.national-trust.or.jp/properties/komaike/k.html

おこしやす

宮井ふろしき・袱紗ギャラリー

学芸員　小山　祥明

宮井株式会社について

宮井株式会社は明治34（1901）年，初代宮井傳之助が「御殿織袱紗」を工夫し，袱紗問屋として京都市下京区にて宮井傳之助商店を創業したのに始まります。

「御殿織袱紗」とは細い経糸に緯糸で表された文様が刺繍の様に見える織り方で調製された先染袱紗です。

明治36年に当社は「御殿織」の商標を取得し，同年の「第五回内国勧業博覧会」では御殿織大袱紗を出品と記録にあります。

現在当社の基幹商品のひとつであるふろしきを取り扱ったのは大正時代からです。

当時，贈答儀礼の道具に関連するものとして，お客様からの要望によって製造・販売されるようになったとのことで，このとき作られた正絹無地ふろしきは，使用される染料は変化していますが，色は当時から現在も変わらず宮井の色として継続して販売されています。

宮井株式会社は，創業以来，長年に亘ってお得意様や取引先の暖かいご支援を賜り，2001年には創業100周年を迎え，また間もなく110周年を迎えようとしています。

昨今は環境問題の意識の高まりでふろしきの使い方がクローズアップされたり，また日本文化の伝統に注目が集まる中，当社はこれからも温故知新をモットーに，日本人が普遍的にもつ伝統的な思想や文化と共に商品を発信していきたいと思っています。

宮井コレクションについて

宮井株式会社には「宮井コレクション」として染織を中心とした3,000点あまりのコレクションがあります。

これらは創業以来，染織技術および商品開発の参考資料として収集・保管されてきたものです。

コレクションはおおまかに４つに分類され，ひとつは江戸時代から昭和初期までの袱紗・ふろしきを中心として収集されたもの，もうひとつは出雲地方の筒描藍染紺屋の伝統技術並びに伝統風俗が衰微していくのを惜しみ，昭和40年代後半に大正時代の製作技法で復元した「嫁拵え」「孫拵え」の一揃えです。この資料は完全な一揃えで残っているものとして染色技術の保存としても，伝統習俗の記録としてもたいへん貴重なものとなっています。

繻子地嶋台模様刺繍袱紗　江戸後期

出雲地方の嫁拵え・孫拵え

またひとつに「世界のふろしき」と呼ばれる資料があります。

これらの資料約240点は，ふろしきが長らく日本独自のものであると言われていた時，世界中の包んだり掛けたりして使用される布帛に注目し，調査・収集したものです。

この世界の布帛のコレクションは国立民族学博物館と共同で企画を行い，当社資料と国立民族学博物館の所蔵品，そして個人のコレクターの資料を合わせて「世界大風呂敷展」と

世界大風呂敷展　長崎県美術館

して公開されました。2002年に始まったこの企画展は海外（韓国）も含めた全国各地で巡回展となり，現在まで10館に亘って開催されています。

ブータンの包み布ブンディ

加えて当社が「逸品もの」と名付けているものがあります。

それらは当社の通常のものづくりとは異なる観点で特別に企画され，制作されたものです。古格や希少性に乏しいかもしれませんが，そのひとつひとつには制作時の最高の技術が用いられており，技術保存として，また方形布帛がもつ思想を追求したものとして他にはない独自の資料と捉えています。

布帛の利用に関して日本人は，包みものとして物を運んだり，種々のものをまとめたり，また覆いものとしてホコリよけや儀礼における結界としての役割など用途に応じて様々に工夫し，独自の文化を築いてきました。

しかし，昨今の急激な生活様式の変化により，伝統的に培われた布帛の利用は，残念ながら目にすることが少なくなっています。

日本の包む・覆う文化は，決して旧習にとらわれたものではなく，現在の生活においても価値あるものとして，当社は様々な文化発信を行ってきました。

それらを語る背景として「宮井コレクション」は当社では単なる収集品ではなく，重要な役割をもったものとなっています。

宮井ふろしき・袱紗ギャラリーについて

当社歴代社長は「宮井コレクション」は当社所有のものではあるものの，公共性をもって研究者や一般の用に供する性格を持つ，との意志を持ってきました。

そういった中で当社の100周年を記念してささやかなスペースではありますが，コレクションを公開する場として京都本社内に設けられたのが当ギャラリーです。

多くの博物館では常設展と特別展に分かれれて展示されていますが，当館では限られたスペースと言うこともあって企画展のみの運営となっています。企画によって「宮井コレクション」のなかから主旨に合うものを選出し，展示を行っています。

ギャラリーの企画は，袱紗やふろしきの文様に注目し，その役割や美的表現を取り上げたもの，ふろしきや袱紗が作り出される染織の工程を紹介したもの，包むことを意識したふろしきの構図をひもといたものなど，独自で考えられたものばかりです。

限られた資産のなかでの運用ですので不足な点もありますが，当ギャラリーは，今後も布帛が織りなす文化を様々なかたちで発信していきたいと考えています。

ふろしき構図の変化

京都ギャラリー内観

宮井ふろしき・袱紗ギャラリー

所 在 地　〒604-8163
京都市中京区室町通六角下る鯉山町510番地
TEL(075)221-1076　FAX(075)221-8659

交　　通　地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅下車徒歩5分
阪急電鉄「烏丸」駅下車徒歩5分

開館時間　10：00～17：00

休 館 日　土曜日，日曜日，祝祭日

料　　金　500円

※ふろしき包み方体験や，ＤＶＤ観賞ができるオプションコースあり（要予約・別途500円）。

トピックス

平成22年度 京博連総会を開催

去る６月24日㈭，京都国際マンガミュージアムにおいて，平成22年度京博連総会を開催いたしました。

総会では，樋口隆康会長による開会あいさつのあと，来賓として御出席いただいた細見吉郎京都市副市長から，門川大作市長のあいさつを代読していただきました。続いて永年勤続者の皆さんへ，樋口会長から表彰状と記念品が，細見副市長から市長感謝状がそれぞれ手渡されました。

議事では，役員改選案が提出され，満場一致で可決されました。新役員の任期は平成24年６月までです。総会終了後は，京都国際マンガミュージアム研究員の表智之氏から「博物館資料としてのマンガ」と題した講演をいただき，ミュージアム内の自由見学も行いました。

会場を御提供いただいた京都国際マンガミュージアム，また博物館ふれあいボランティア「虹の会」の御協力のもと，本年度の総会も盛大に開催することができました。

表彰の様子

講演風景

栄えある 御受賞，お祝い申し上げます

京博連加盟館において永年にわたり勤務され，博物館施設の充実・発展，文化の向上に寄与された方々に京博連表彰を行いました。（五十音順）

功労賞

京都市考古資料館	中村　敦　様
京都市青少年科学センター	本部　勲夫　様
ＫＣＩギャラリー	新居　理絵　様
泉屋博古館	廣川　守　様
元離宮二条城	井上　直樹　様

奨励賞

京都国立博物館	淺湫　毅　様
	永島　明子　様
京都市学校歴史博物館	秋山美津子　様
京都市考古資料館	原山　充志　様
	村木　節也　様
思文閣美術館	髙山　明子　様

職員研修交流会を実施

９月９日㈭，京都ロイヤルホテル＆スパにて，平成22年度の職員研修交流会が行われました。本年度の研修会では，京博連相談役の榊原吉郎氏に講師をお務めいただき，「美術館とは？ ～作品の一側面～」をテーマに御講演いただきました。

研修会のあと，会場では引き続き交流会が行われ，参加した職員の皆さんにとって，楽しく語り合いながら，情報交換を行うひと時となりました。

榊原先生の講演

新役員の紹介（任期 平成22年7月1日～平成24年6月30日）

会　長	樋口　隆康	泉屋博古館館長
幹 事 長	細見　良行	細見美術館館長
副幹事長	井上　満郎	京都市歴史資料館館長
	田中　惠厚	宝鏡寺門跡住職
幹　事	赤尾　栄慶	京都国立博物館学芸部副部長
	大邊　　徹	大河内山荘代表
	潮江　宏三	京都市立芸術大学芸術資料館館長
	谷　　晃	野村美術館学芸部長
	橋本　眞次	白沙村荘橋本関雪記念館副館長
	安西佳津子	いけばな資料館池坊中央研究所
	山野　英嗣	京都国立近代美術館学芸課長
	樂　扶二子	樂美術館専務理事
監　査	才寺　篤司	京都商工会議所産業振興部副部長
	本部　正一	社団法人 京都市観光協会事務局長
庶務（事務局長）	山本　浩智	京都市教育委員会生涯学習部担当課長

相談役	石原　義正	京菓子資料館理事長
	木村幸比古	霊山歴史館学芸課長
	榊原　吉郎	京都市立芸術大学名誉教授
	筒井　紘一	茶道資料館副館長
	栗山　一秀	月桂冠大倉記念館名誉館長
顧　問	北川　和夫	想い出博物館館長
	桜井　茂男	京都市特別社会教育指導員（元島津創業記念資料館館長）
	長澤　　勇	京都市特別社会教育指導員（元京都市教育委員会生涯学習推進課専門主事）

平成22年度　京都市博物館連続公開講座

毎年，市民の方々から大変好評を得ている本講座を，本年度も加盟館協力のもと全５回で開催いたします。

第1回

日　　時　平成22年10月30日㈯　午後２時～４時
会　　場　思文閣美術館
（左京区田中関田町２－７）
講　　師　慶應義塾大学文学部教授　石川　透氏
テ ー マ　「奈良絵本・絵巻とはなにか」
募集人数　40名

第2回

日　　時　平成22年11月16日㈫　午後２時～４時
会　　場　大西　清右衛門美術館
（中京区三条通新町西入釜座町18－１）
講　　師　館長　大西　清右衛門氏
テ ー マ　「朽ちゆくものの美－茶の湯釜の制作と鑑賞－」
募集人数　40名

＊参加者は各講座ごとに募集し，受講料は無料です。
＊京都市が毎月発行する広報紙『市民しんぶん』等で参加募集（平成22年９月号から）。応募者多数の場合は，抽選を行います。
＊主催：京都市内博物館施設連絡協議会／京都市教育委員会

新規加盟会員の紹介

昨年度の第５回幹事会（２月）以降，新たに６会員が入会されました。

正会員　※五十音順

◆千本釈迦堂　大報恩寺　霊宝館（上京区五辻通六軒町西入溝前町1034）
◆大覚寺　霊宝館（右京区嵯峨大沢町４）
◆長楽寺　収蔵庫（東山区円山町626）
◆東福寺　光明宝殿（東山区本町15丁目778）
◆日本髪資料館（東山区大和大路四条上ル常磐町164　白川ビル２F）
◆善峯寺　寺宝館　文殊堂（西京区大原野小塩町1372）

頼山陽書斎山紫水明處

財団法人頼山陽旧跡保存会　理事長　頼　政忠

わが館を紹介

山紫水明處　外観

丸太町橋の西詰を北へ200mほど上り，住宅街の路地を奥へと進むと山紫水明處が当時の姿そのままに残されています。鴨川側からそのかやぶきの屋根を，散歩やジョギングの途中に目にされた方も多いのではないでしょうか。

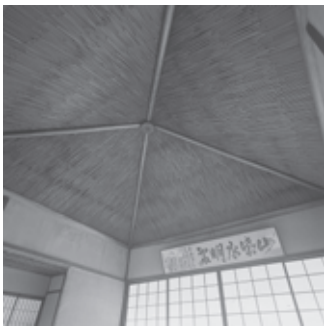
山紫水明處は，「鞭声粛々」で始まる川中島の戦いを詠んだ詩など多くの漢詩を残し，また維新の志士達に大きな影響を与えた幕末の大ベストセラー「日本外史」を著した頼山陽（1780～1832）の書斎です。

山紫水明處は，山陽が晩年を過ごした水西荘という母屋の南側に増築されたものです。山陽は，鴨川に面し東山を一望できるこの場所を大いに気に入り，「京都は三都第一の景勝と云ふが，其中でも自分の家の處は最も景勝である」と書いていましたし，また「関白我也」と書いて，ここから眺めている自分は関白様のようだと絶景の一人占めを得意がっています。また，山陽はここで思索にふけったり，当時の一流の文化人であった田能村竹田，梁川星巌，大塩平八郎といった友人たちと交流したりしました。彼らを招いては，当時漢学者の間で流行していた煎茶を楽しみ，縁側から直接釣り糸を垂れては自ら釣った魚を焼いて酒の肴としてふるまっていたそうです。

わが館ひと自慢

現在，山紫水明處には，お客様をご案内するスタッフが５名登録されております。はじめは皆，頼山陽や山紫水明處のことをあまり知りませんでしたが，山紫水明處に通うたびに愛着を深め，お客様によりよいご案内ができるようにと自身でも勉強しております。見学は完全予約制ですので，お客様が来られる前には庭と建物内を掃除し，一組一組のお客様と丁寧に接し，またスタッフ自身，お客様との会話を楽しんでいるようです。皆さん登録されてから２年以上が経ちましたが，本当に自慢のスタッフです。

わが館もの自慢


ヨシを並べた天井

山紫水明處には，壁や障子の腰に網代を貼ったり，床脇の地窓に巧みな工夫を凝らしたり，天井を寄棟の化粧裏にしてヨシを並べたり，縁側の手摺に中国風の意匠を用いたりとかなり手の込んだところもあれば，赤松皮付きの節のある柱といった粗末なものを使っているところもあります。また，障子には当時は非常にめずらしかったガラス板がはめ込まれており，気泡やゆがみのあるこのガラスを通して，山陽が当時見た景色が見られます。

山紫水明處の建築には数年がかけられたといわれ，頼山陽自身の発案と思われる特徴的，異国的な意匠や工夫が随所に凝らされております。文筆活動から評価されることの多い頼山陽の別の一面を見ることができるのではないかと思います。

室内から東山を望む

工夫が凝らされた床の間

◉**所在地**
京都市上京区三本木通丸太町上る南町
◉**ＴＥＬ**
(075)561-0764
◉**交通**
京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車徒歩５分
市バス「河原町丸太町」下車徒歩５分
◉**開館時間**
10：00～17：00（入館は16時まで）
◉**料金**　一般700円（20名以上は団体割引），学生500円
※入館は要予約。往復ハガキにて２名以上で（財）頼山陽旧跡保存会へ。
［〒605-0063 東山区新門前松原町289］

ひと・もの・わが館自慢

京都市文化財建造物保存技術研修センター

公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会
京都市文化財建造物保存技術研修センター長　岸田　重信

わが館を紹介

国民の貴重な財産である文化財建造物を後世に伝えていくためには，文化財そのものは当然のことながら，建造物の維持，修理のための技術者の養成，後継者の育成が必要です。

当センターは，建造物を中心としたこれら文化財の保存技術の継承や後継者の育成事業を中心に，伝統的な屋根技能をはじめ保存技術にかかわる道具類やその工程なども広く知っていただくための施設です。

文化財建造物保存技術研修センター　外観

わが館ひと自慢

我々「公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会」が指定管理者として，当センターを管理運営しております。皆さまのご来館をお待ちしております。

展示風景

わが館もの自慢

当センターは，文化財保存技術研修や文化財普及啓発のために，会議室や研修室を下表の料金でお貸ししています。パソコン・プロジェクター・スクリーンなども備えておりますので，ご利用ください。

会議室

利用料金

利用区分	利用料金（円）	
	9：00~12：00	13：00~17：00
第１会議室（34㎡，30人）	**4，600円**	**6，100円**
第２会議室（47㎡，42人）	**6，300**	**8，400**
第２資料室（53㎡）	**7，100**	**9，500**
実習室（53㎡）	**7，100**	**9，500**
製図室（17㎡）	**2，300**	**3，000**
第１研修室（和室８畳）	**1，700**	**2，300**
第２研修室（和室６畳）	**1，300**	**1，800**
第３研修室（和室６畳）	**1，300**	**1，800**

◉所在地
〒605-0862　京都市東山区清水２丁目205-5
◉ＴＥＬ（075）532-4053　**◉ＦＡＸ**（075）532-4064
◉交通
市バス「清水道」下車徒歩５分
京阪電鉄「清水五条」駅下車徒歩15分
◉休館日
日曜日，月曜日，祝日及び年末年始（12月28日から１月４日まで）
◉開館時間
９：00～17：00
◉料金　無料（会議室などを利用の際は別表料金）
◉ホームページ
http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000005595.html

ひと・もの・わが館自慢

水野克比古フォトギャラリー　町家写真館

副館長　水野　秀比古

わが館を紹介

フォトギャラリー　外観

西陣・千両ヶ辻にある写真ギャラリー『水野克比古フォトスペース』は，明治初期に建てられた典型的な表屋造りの京町家を修復し，平成12年（2000年）10月にオープンしました。間口３間，奥行き18間の町家を，敢えて近代風にではなく昔の形に復元しています。出来る限り古材を集め，愛情と手間をかけて再生。町家の持つ歴史と息づかいが感じられるようにしています。

館内には，京都を40年以上撮り続けている水野克比古の写真を中心に，同じく写真家として活動している水野秀比古・水野歌夕の作品も展示。

常設展として，四季の風景写真や神社仏閣の写真，路地風景や町家暮らしなど常時約50点ほどを鑑賞していただけるほか，出版記念展覧会など特設の写真展を不定期に実施しています。また，敷地の奥には「坪庭」があり，座敷や縁側に座って四季の風情も楽しめます。写真や建物だけではなく，町家での“暮らし”や“季節のしつらい”なども，見ていただきたいと思っています。

フォトスペース　外観

公開10周年にあたる平成22年（2010年）７月には，大宮通を挟んだ向かい側に，分室として『水野秀比古フォトギャラリー』を開館。木造２階建ての町家を改装し，１階のメインギャラリーでは常時約20点以上の写真作品を展示しています。２階のスペースはサブギャラリーを兼ねたカルチャースペースとしての活用を予定。将来的には写真講座の開催を計画中です。

通常の入館は事前予約制（無料）となっていますが，毎年９月23日の秋分の日に催される「伝統文化祭・西陣千両ヶ辻」（http://senryogatsuji.com）には終日一般公開しております。本年度は，「西陣・美の辻」としての企画も進行中で，町家写真館分室では開館記念を兼ねた水野秀比古の作品展を同日～９月29日まで開催する予定です。

わが館ひと自慢

父・水野克比古を筆頭に，水野秀比古，水野歌夕と，３人それぞれの作品を常設展示しています。京の町家で，京都の写真を，親子二代にわたって公開しているということが，わが館の特徴であると言えます。

水野克比古氏

水野秀比古氏

水野歌夕氏

わが館もの自慢

フォトスペース　内観

最大125×100cmの大判プリントをはじめ，幅245cmのワイドパノラマプリントなど大小様々なサイズで写真を鑑賞いただけます。それらはすべてオリジナルプリントとして購入可能です。館内には150冊に及ぶ著書・出版物を保管しており，絶版本もご覧いただくことができるほか，近著の書籍は著者サイン本として販売しております。京の四季や風物を写したポストカードも人気が高く，70種類以上を取り揃えています。

◉所在地
〒602-8214 京都市上京区大宮通元誓願寺下ル
◉ＴＥＬ　(075)431-5500
◉ＦＡＸ　(075)431-5511
◉開館時間　11:00～17:00（要予約）
◉開館日　日曜日・祝日　◉料金　無料
◉交通　市バス「今出川大宮」下車 南へ徒歩２分，
「一条戻り橋」下車　西へ徒歩５分，
「大宮中立売」下車　北へ徒歩４分
地下鉄烏丸線「今出川」駅下車　西へ徒歩15分
※駐車場は１台のみ可。その他，近隣にコインパーキング有。
◉ホームページ
http://d.hatena.ne.jp/mizunohidehiko/20100505

西陣織会館とその周辺

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
大溝　徳太郎

西陣の中心地・堀川今出川周辺は，蹴鞠で有名な白峯神宮，平安時代の陰陽師，安倍晴明を祀る晴明神社，歴史上や物語によく登場する一条戻り橋などがあり，人気観光スポットです。この一角に「西陣織会館」があります。会館内では，一階ステージできものショーを，二階では西陣織製品の直売と，丸帯や綴帯の製織実演を，三階資料室では歴史のある貴重な館蔵品を順次展示しています。最近は外国人のお客様も多く，ショーの時間には大勢の見学者で賑わっています。また新しく三階にも実演ブースができ，着物や帯の製作工程をお客様にわかりやすくご覧いただけるようになりました。

この西陣織会館で，新たに我々虹の会のボランティアが活動することとなりました。館の試みと来館者との良い橋渡しが出来れば最高だと存じます。私も長年関わってきた業界だけに，伝統産業振興のPRに寄与できるよう願っております。

きものショー風景

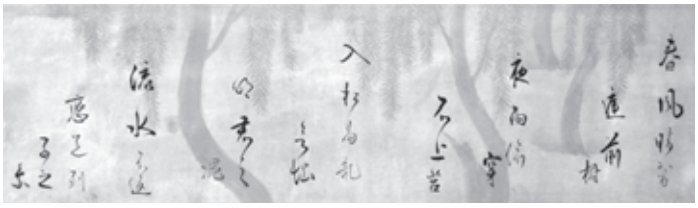
虹の架け橋－琳派からお客様へ－

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
多田　光子

「いらっしゃいませ。三階からごゆっくりご覧ください」と，エレベーターまでお客様をご案内させて頂く…。三階には光琳・光悦など琳派を中心に法隆寺の古材なども展示されている。ただ，黎明教会資料研修館は吉田山・神楽岡にあり，茶室から望む大文字山がこの館で観られる一番古いモノだとか…。

資料館も私も，虹の会にお世話になり一年。この館ではボランティアの方々がチラシを配り，ご友人を誘い…と，館を盛り立てて下さっている。そして，「チラシをみた」「薦められて」と，ご来館下さった時は皆で大喜び…。「館とお客様の架け橋になる」「喜んでさせて頂く」ことの大切さを諸先輩・皆さまから現場で教えて頂いている。

黎明教会資料研修館では，九月･十月に「光悦展」が開催される。四百年の時を越えた作品をたくさんの方に観て頂けるよう,「架け橋」となり「喜んで･感謝して」ボランティア活動をさせて頂きたい。



和漢朗詠集断簡（光悦）

博物館ふれあいボランティア「虹の会」とは？

「虹の会」は，京博連と京都市教育委員会が開催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を修了した市民の皆さんで作るボランティア団体です。

会員は，自らの生涯学習のため，また施設と来場者の架け橋となるため，京博連加盟の博物館・美術館等の施設で積極的にボランティア活動を行っています。活動の内容は，具体的にはイベントの受付や，展覧会での監視業務，展示品の簡単な解説など多岐にわたります（施設からの要請に応じて，様々な活動を行っています)。

活動依頼は，月に１回，京博連事務局を通して行います。定期的な活動のほか，１日のみ，また数日から一週間といった短期的な活動にも参加していますので，活用を希望・検討される京博連加盟館におかれては，お気軽にお問合せください。

問合せ先：京博連事務局　TEL（075）251－0410　FAX（075）213－4650

＊本年度も「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を10月から開催します。

島原と角屋（すみや）の今後

財団法人角屋保存会
理事長　中川　清生

当財団は，平成元年に設立し，重要文化財建造物角屋の保存と活用の事業を行ってまいりました。今年で満21年になります。その間，平成10年には角屋もてなしの文化美術館を開館し，角屋の建物と伝来の美術品の公開を行ってまいりました。その活動は，角屋がなぜ文化財であるのか，そして，島原はかつて歓楽街にありながら，なぜ文芸が盛んであったのかという疑問に答えるべく企画展を行ってきたところであります。

角屋の建物は，早く昭和27(1952)年に国の文化財に指定されておりましたが，今年４月１日付けで，臥龍松（がりょうしょう）のある庭も「京都市指定名勝」に指定され，角屋全体がもてなしの施設として文化財の評価をいただけたことになります。

ところで，島原は一般的には江戸の吉原と同一視されております。しかしながら，最近の調査研究により，歓楽的な業務専門の吉原とは違い，歌舞音曲の宴はもとより句会や歌会も開かれるほどの風流な町でもあったことが明らかになってまいりました。その違いを訴えていかなければ，広く一般の理解が得られないのであります。

島原は，江戸初期の開設当初から立地が悪く，町中から外れており，来訪者は祇園などに比べて極めて少なかったのであります。交通手段の発達した現在でも，美術館の運営にあたっては，困難を余儀なくされております。新撰組ブームの平成15年には，角屋にも，年間12万余の観光客がお見えになりましたが，これは残念ながら一過性に止まり，翌年からはブームの年の１割程度にしかならず厳しい状況が続いております。

そのような中，地元の方々とも相談し，島原は江戸時代に俳壇や歌壇も出来るぐらい文芸も盛んな町であったことを知っていただくために，句碑や歌碑の七つの文芸碑を建立いたしました。また，案内板を設置するなどして町の正しい理解を得るために努めております。

京都市指定名勝「角屋（すみや）臥龍松（がりょうしょう）の庭」

さらに，今年の８月からは島原内の道路を石畳風舗装に改修しており，10月中頃には風情ある道路が完成いたします。この工事は，もちろん京都市の設計管理と指導の下に行うのでありますが，島原の歴史的景観を少しでも保全しようと，工事費用の全額を地元負担で実施するものであります。

角屋や島原は，今後とも周辺の施設と連携して下京区内の活性化に協力してまいりたいと存じますが，区内の名所を巡る歩道や道路案内標識等の公的な整備もぜひお願いしたいものであります。

発　　行　平成22年9月
編集・発行者　京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会 生涯学習部内）
所　在　地　〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る 元生祥小学校内　TEL：(075)251-0410　FAX：(075)213-4650
ホームページ　http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_13.html